

2018年4月3日
株式会社ボーネルンド

若年層の流入を目指す行政と協働開発！ 地域に根付いた「子育て支援拠点」を創出 群馬県桐生市のあそび場が4月9日にオープン 福島県伊達市のあそび場も、3月29日に運営を開始

子どもの健やかな成長に寄与することを目的に、教育玩具・遊具の輸入・開発・販売とあそび場づくりを行う株式会社ボーネルンド(本社:東京都渋谷区、代表取締役社長:中西弘子)は、行政と連携し開発した、群馬県桐生市のあそび場を4月9日にオープンします。また、福島県伊達市のあそび場も3月29日よりオープンしました。

人口減少に悩む自治体の課題を解決。子育ての社会インフラとしてのあそび場を開発

昨今、公園の遊具が撤去されて子どもが外で存分に遊べる環境が少なくなり、子どもの体力やコミュニケーション能力が低下する問題が表出しています。また、人口流出が進む地方自治体では、若いファミリー層の流入に向けて「子育てしやすい街づくり」を標榜しています。こうした課題に対して、子どもの健やかな成長にあそびを通して貢献する当社では、子どもの健やかな成長を促し、親と子にとって魅力的なあそび場は、各地域に整備されるべき生活基盤だと考え、開発を行政と連携して積極的に行っています。

当社が開発するあそび場は、子どもが全身を大きく動かして遊び、あそびを通して主体性や協調性を育むことを意図して設計しています。さらに、常駐するプレイリーダーが、一人ひとりの発達を促す遊びを提案。親同士の交流の場として親子に親しまれ、実際に「この施設があることを知って、この街に住むことを決めた」という声もいただいています。また、プレイリーダーの育成や施設の維持・運営をトータルで支援できる体制も整い、継続的に運営することができる点が自治体から高く評価され、現在までに23カ所の自治体との協業し、子育てに欠かせない社会基盤としてのあそび場を開発してきました。

群馬県桐生市：若年層の人口定着を促す - 市の歴史や文化に触れ郷土愛を育む、地域の子育て拠点



■ 桐生市屋内遊戯場

- ・所在地：桐生市末広町13番4号
- ・面積：336.2㎡(屋外テラス155.8㎡を含む)
- ・オープン：4月9日
- ・運営管理：NPO法人キッズバレイ(桐生市運営委託)
- ・利用料金：子ども1人につき100円
(75～80分の時間区分ごと)

桐生市屋内遊戯場は、市の歴史や文化を感じることができる屋内あそび場です。同市は、若年層の都市部への流出などを背景として人口減少が進むなか、市民からも子育て環境の充実を求める声が上がっていました。そこで当社は市と連携して、子育て情報が集約される保健福祉会館内に、同市が目指す、魅力的な「地域の子育て拠点」となるあそび場をプロデュースしました。

子どもと親のあそびが充実するよう、乳幼児から小学生まで、子どもの発達に合わせたゾーニングを工夫し、体を思い切り動かして遊べるゾーン、ごっこ遊びや組み立て遊びなどの集中ゾーン、乳幼児専用コーナーを設けました。さらに、幼少期から地元への誇りを育むことを狙って、織物の産地として知られる桐生市ならではの遊具やあそび場をデザイン。同市の特徴的な建物である「のこぎり屋根」や、「わたらせ峡谷鉄道」の車両を模したオリジナル遊具を設計し、壁の緩衝材には織物をイメージした布地を使用しました。

福島県伊達市：震災後に外遊びが制限 - 天然木を活用し、ダイナミックに遊べる室内あそび場を創出



■ 伊達屋内運動場 ファミリーパーク だて

- ・所在地：福島県伊達市細谷 45-1
- ・面積：約 411 m²
- ・オープン：3 月 29 日
- ・運営管理：伊達市
- ・利用料金：無料

伊達屋内運動場「ファミリーパーク だて」は、福島県伊達市内に開設する屋内あそび場です。東日本大震災以降、子どもの外遊びの機会が制限され、子どもの運動能力の低下が危惧されることから、同市は屋内あそび場の開発に積極的に取り組んできました。今回、より子どもが活発に動き、利用者でにぎわうあそび場環境を新たに整備すべく、乳幼児連れでも利用がしやすい駅近にあそび場をオープンしました。

当施設は 2 つの大型木製遊具を中心として、森の中で遊ぶような全身を使ったダイナミックな体遊びから、情動的なごっこ遊びまで、多種多様なあそびを存分に楽しめます。ドイツ・ベカ社のプレイハウスは、市を象徴する「霊山」の新緑と紅葉をモチーフにした高さ約 4m の 3 階建ての木製遊具で、遊具の中にながら実際の外の景色を眺める工夫を施しました。一方のジクホルツ社のスパイラルハウスは、冒険心・探求心をそそる、自然の木の曲線美を生かした遊具となっています。さらに、屋内でも思い切り走れるコースや三輪車専用のサーキットを備え、施設の中で安全に思い切り遊ぶことができます。同施設内には、親同士が交流できるママカフェもあり、親も子どもも安心して、伸び伸びと過ごせる子育て拠点となっています。

行政と協業したあそび場の開発 事例紹介



■ 「安城産業文化公園デンパーク」 (愛知県安城市 2018 年オープン)

安城産業文化公園デンパークは、より子どもも楽しめる公園を目指して、当社と連携しリニューアルを行いました。屋外には幼児が砂遊びなどを楽しめる遊具や、小学生が木登りをするようなチャレンジができる国内最大級の遊具があり、屋内では天候を問わず親子で思う存分遊べる環境が整います。これがこれからの公園のあるべき姿の一つであると考え、今後も豊かなあそび環境づくりに取り組んでまいります。



■ 「カブッキーランド すくすくひろば」 (石川県小松市 2017 年オープン)

石川県小松市と協業し、子どもが小松市の良さを知り、地元への誇りを育むことができる親子のあそび場を開発しました。豊かな自然や空港、石切り場といった、市の環境やストーリーに紐付いた環境であり、遊びながら小松市のことを学べます。人口約 10 万人の市ですが、オープン以来 3 か月で約 3 万人が来場し、子育てに欠かせない場となっています。



■ 「宮津市子育て支援センター にっこりあ」 (京都府宮津市 2017 年オープン)

京都府宮津市は、天橋立で知られる観光地で、年間約 300 万人もの観光客が訪れます。一方で少子高齢化は進行し、子育て支援の一層の充実が必要でした。そこで当社と協業し、多種多様な遊びが揃い、親子が繰り返し訪れたいくなる新たな子育て支援の拠点として開設しました。保育士が常駐して相談を受けるなどソフト面の充実も図っています。土日も開設し、市の人口が約 1 万 8 千人のところ、オープン 3 か月間で 1 万人を超す多くの親子の来場を記録しています。

【 ボーネルンドについて 】

ボーネルンドは、あそびを通して子どもの健やかな成長に寄与するため 1981 年に設立し、一貫して“あそびの道具と環境”を提供する事業を展開。一般家庭へ向け、子どもの成長に必要な生活道具としての“あそび道具”を提案、全国 83 ヲ所で店舗を展開しています。同時に幼稚園や保育園、公園などに高品質な大型遊具や教育道具の提供を含めたあそび環境の開発を行っており、現在までに手掛けた実績は国内約 3 万 5 千ヵ所まで拡大しています。また、2004 年からは、子どもが遊ぶ機会を増やすために、親子一緒に様々なあそびを体験できる室内あそび場「キドキド」事業をスタート。全国 21 箇所、年間 272 万人以上、「キドキド」のノウハウを取り入れた地方行政の室内あそび場を含めると全国約 30 箇所、年間 300 万人以上の親子が訪れています。

【報道関係の方のお問い合わせ先】

株式会社ボーネルンド 広報室

担当：村上、金山

TEL：03-5785-0860、080-5901-3591

e-mail public-relations@bornelund.co.jp

【一般の方のお問い合わせ先(ご掲載用)】

株式会社ボーネルンド

TEL：0120-358-518(月～金 10:00～17:00)